

インフルエンザの流行に備えましょう!



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 53	37	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↘ 95	135	ヘルパンギーナ	→ 5	5
咽頭結膜熱	↘ 17	27	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→ 57	57
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 56	110	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↘ 344	600	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 12	29
水痘	↗ 18	16	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↘ 2	7	無菌性髄膜炎	→ 1	1
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 50	87	マイコプラズマ肺炎	↗ 5	4
突発性発しん	↘ 21	30	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗ 12	5

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- 流行性耳下腺炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

- 感染性胃腸炎 : 山鹿、菊池
- 伝染性紅斑 : 熊本、菊池
- 流行性耳下腺炎 : 山鹿

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所	18	28	3	33	74	7	1	27	8		1	15		11		1	4		10
山鹿保健所	1				42	1		1	1			17	*	*		0			
菊池保健所	4	24	9	7	63	3	1	8	4			10							
阿蘇保健所	4				2							1	*	*					
御船保健所	11	1		4	30			1				2	*	*					
八代保健所	9	13		6	44			2	1										
水俣保健所	2	1			5				1			1	*	*					
人吉保健所		16			13	3		5	2			5	*	*			1		
有明保健所	1	6	1	3	31	3		1	2			3		1					2
宇城保健所	1	2	1	2	14	1		3	1			3	*	*					
天草保健所	2	4	3	1	26			2	1			4							
計	53	95	17	56	344	18	2	50	21	0	5	57	0	12	0	1	5	0	12

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	53	0	0	0	2	5	2	1	1	1	6	0	5	4	2	2	14	4	0	3	0	1
小児科定点年齢	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	95	15	19	45	10	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0							
咽頭結膜熱	17	0	2	5	1	2	0	2	2	1	0	1	1	0	0							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	0	0	2	4	5	7	10	3	6	3	3	7	1	5							
感染性胃腸炎	344	4	17	62	28	39	25	27	19	19	15	10	34	9	36							
水痘	18	0	3	4	1	0	1	1	5	1	0	1	1	0	0							
手足口病	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
伝染性紅斑	50	0	1	1	5	3	6	7	5	10	3	3	5	0	1							
突発性発しん	21	1	8	10	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
ヘルパンギーナ	5	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
流行性耳下腺炎	57	0	1	6	3	6	13	10	4	5	2	0	5	0	2							
眼科定点年齢区分	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	12	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	3	2	0	0	0	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	5	0	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	12	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

予防対策

- 流行前の予防接種**
インフルエンザの予防接種は感染や発症そのものを完全に防ぐことはできませんが、重症化や合併症の発生を予防する効果があります。予防接種を受けてから効果がでるまで2週間程度かかるため、はやめに接種を行いましょう。
- 飛沫感染対策としての咳エチケット**
インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から出る小さな水滴(飛沫)による飛沫感染です。普段から、咳エチケット(咳やくしゃみを他の人に向けて発しないこと、咳やくしゃみが出る時はできるだけマスクをすること、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと)を守ることを心がけましょう。
- 外出後の手洗い**
流水・石鹸による手洗いは手指など体についてインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、インフルエンザに限らず接触感染を感染経路とする感染症対策の基本です。20秒以上時間をかけた丁寧な手洗いを心がけましょう。また、インフルエンザウイルスはアルコールによる消毒でも効果が高いですから、アルコール製剤による手指衛生も効果があります。

インフルエンザの流行に備えましょう

第53週(12月28日～1月3日)は多くの疾患で報告数が減少しています。これは年末・年始の関係で、医療機関の休診等による影響が考えられます。各疾患の発生動向は、次週以降の発生動向を勘案してご覧ください。その中で、インフルエンザの報告数が少しずつ増加しています。

インフルエンザはインフルエンザウイルスを原因とする急性気道感染症です。おおむね1~3日を潜伏期間とし、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの症状が突然現れます。下痢や嘔吐など消化器症状が見られる場合もあり、通常のかぜに比べて全身症状が強く出やすいことを特徴とします。お子様ではまれに急性脳症を、高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴うなど重症になることがあり、亡くなる方の報告もあります。

例年、インフルエンザはこれから増加し始め、1月から2月にかけてピークを迎えます。予防対策をしっかり行い、流行に備えるようにしましょう。

